

# 星空の キャンパス



義務教育学校 第9学年

第38号

平成31年1月31日発行

## 亥年のはじめに想うこと

校長

今年の干支は亥。猪突猛進とよく言いますが、皆さんは猪が走る姿をみたことがあるでしょうか。数年前、福井市越廼の海辺近くの県道で海をみていたとき、背後でドドド…という音がし、振り向いたら頭髻長1メートルほどの若い猪が私の側を駆け抜けていきました。その速いこと、まさに猪突猛進。猪の走る速さは時速50Kmとも言われています。ぶつかったらひとたまりもありません。また昨年秋には、福井市殿下で猪の親子連れに出会いました。車を停めて観ていたら、好奇心旺盛な4頭の瓜坊が車の近くまでやってきました。しばらくすると母親に促されて林の中に消えていきましたが、その間かわいい瓜坊の姿をじっくり観ることができました。ちなみにイノシシは、分類学上、鯨偶蹄目に属し、ウシやヒツジの親戚にあたります。

それはさておき、1月6日のある新聞に掲載された教育関連記事の中で、「非認知能力」という用語を目にしました。教育学の分野で語られる言葉には理解に苦しむものが多い、というのが私の正直な感想です。この非認知能力という曖昧な言葉が教育界でちょっとしたブームになっているのです。この概念は2000年にノーベル賞を受賞した経済学者J・ヘックマン氏が提唱したものだそうで、簡単に言えば、コミュニケーション力や共感力、忍耐力、自尊感情、意欲などのこと。その後OECDが「社会情動的スキル」という、これもまた難解な言葉を用いてこの能力の重要性を指摘し、さらにOECD Education 2030ではagencyという言葉に置換しているように思われます。OECDの資料も目を通しましたが、内容が抽象的でピンとこないし（読解力と認知能力の不足？）、科学的な根拠はあるのと悶々としているときに、心理学者のA.ダックワース氏の著書「GRIT やり抜く力」の存在を知りました。啓発的なタイトルに抵抗はあったのですが、たまたま書店で見つけたので読んでみることにしました。

ダックワース氏は、人が各々の分野で成功するには「才能」よりも「GRIT（やり抜く力）」が重要であることを様々な調査研究を通して科学的に明らかにし、2013年に米国で「天才賞」とも呼ばれる「マッカーサー賞」を受賞しています。端的に言えば、GRITは「情熱」と「粘り強さ」から成り、自分の目標に興味を持ち続けて真摯に取り組み、困難な状況に陥ったり、挫折しそうになっても諦めず努力する能力のこと。グリット・スコアが高い人ほど幸福感や人生の満足度も高いという結果も示されています（ted.comでダックワース氏の講演も視聴できます）。テニスの大坂なおみ選手もグリット・スコアが高いはずです。

最後に、この本の中である脳科学者の発言が引用されており、印象的だったので紹介します。「我々は脳の神経回路には可塑性があると考えている。まだ若いときに大きな逆境を経験して、それを乗り越えた場合、それ以降にまた逆境が訪れると対処のしかたが変わってくる。ただし、それは非常に大きな逆境を経験した場合に限られる。ちょっと困った程度のことでは脳に変化が起こらないからね。」

私のような老化した脳には可塑性もレジリエンスもありませんが、若い皆さんは違います。向こう見ずに突き進む「猪突猛進」ではなく、目標をもって「GRIT」を育ててほしいと思います。



# ○生徒達の活動の様子

## ～愛級祭 (12/20)～

愛級祭では、自分たちのクラスをダンスやプレゼン等で表現し、クラスの絆を深め、団結力を高めました。どのクラスも、クラスの個性、クラスへの愛が前面に押し出された発表となり、大変盛り上がりました。

A組



あい級祭は当日何が起るかわからない。実  
さいに一昨年の8Aの愛級祭も本番当日で、  
クラス紹介を変えたり、9Aの演劇も当日に  
ユ-5Bが壊れてクラスみんながあせったた  
め、僕はこんな気持ちだった。でもみんな一  
丸となって臨機応変に対応してくれていた。  
だから僕は9Aにすごく感謝したい。サポ  
ートしてくれて本当にありがとうございました。

A組 生徒委員

B組





# C組



昨年までの愛級祭は、ダンスをしているクラスが多かった。でもそれでは愛級祭の目的を果たすことができていない。そのため、今年はダンスだけを行うのは禁止とした。そのおかげでそれぞれのクラスがあらゆる工夫をしていて、見ていて飽きない発表になっていた。当日は音が小さかったり全校企画が出来なかったりと色々問題が発生したが、それぞれのクラスが楽しむことができていたので、愛級祭は“成功”した。良かった。

C組 生徒委員



今年の愛級祭は、例年とは少し変わってクラスの紹介などをまとめた劇やビデオがあってクラス愛が感じられた。特に9年生はビデオやパフォーマンスのクオリティが高く、会場全体を笑顔にさせるようなものだったので、とても良い愛級祭だったと感じた。卒業するまで残りわずかなので、クラス全員で仲良く卒業できるようにしたいと思った。

B組 生徒委員

## ～音楽集会 (1/11)～

5年生から9年生が一堂に会して音楽集会が行われました。この音楽集会では、前期課程と後期課程との縦のつながりを、音楽を通して感じてもらうと共に、学校全体で音楽文化を創りあげていこうと毎年行っています。どの学年も、曲に気持ちを込めて、誇りをもって精一杯合唱や演奏を披露することができました。

今回の音楽集会は、日本の音楽だけでなく、世界の音楽にも触れることができ、さらに、日本の良さを知ることができたと思います。また、発表者が発表しやすいような雰囲気や、スムーズに進行することができました。これも、9年生のみなさんが集中して耳を傾けてくださり、その空気が全校に広がったおかげだと感じました。ありがとうございました。

音楽委員長 A組

今回の音楽集会は前期課程の5・6年生も参加し、同じジャンルや同じ発声方法の演奏を聴くことで縦のつながりを感じられたのではないのでしょうか。5年生と9年生は世界の音楽について、6年生と7年生、8年生は日本の音楽について探究して発表しましたが、一つのテーマを様々な視点からとらえ、表現が出来ていたと思います。

音楽副委員長 A組



5年生の発表



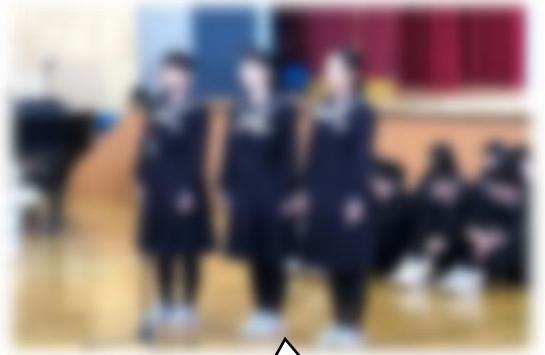
6年生と8年生による  
雅楽の発表



賛美歌：Ave Maria  
(アヴェ・マリア)



アフリカの童謡



賛美歌：Amazing Grace  
(アメイジング・グレイス)



イタリア大衆歌謡：Funiculì funiculà  
(フニクリ・フニクラ)

フィンランド民謡：Ievan Polkka  
(イエヴァン・ポルカ)



モンゴルの歌唱法：ホーミー

全校合唱：ふるさと



## ～附族 Memories～

このコーナーでは、生徒の日常の様子をお届け致します。

### 〇卒業制作展 ～15歳の「私」～

9年間の附属の学びの集大成として、15歳の「私」について、「何を」「どのように」「どうやって」表現するか、一人一人が真剣に今の自分と向き合って制作しました。生徒達が自由に、ありのままの自分を表現した作品達。見応えのある作品ばかりでした。

福井大学教育学部附属義務教育学校 9年生 卒業制作展

### 15歳の「私」



今回の卒業展では、15歳全員の作品が展示され、個性豊か、興味多岐な作品が数多く見られます。私達の未来した「私」を、ぜひ観に来てください！  
実行委員長 9年6組岡田君

**科学部フェスタ10**  
(with 川西中学校科学部)  
1月13日(日) 10:00～12:00  
アートを題材とする科学部大会開催  
B1/C1  
・STEMワークショップ (PCH 提供)  
・STEM展示  
・ぐるぐる 作品展

日時 2019年1月18日(日)～16日(水)  
9:00～17:00(初日 10:00から)  
(最終日18:00まで)  
会場 福井大学ア카데미ホール  
入場 無料



育友会より、素敵なお花をいただきました。

